

鳥インフルエンザ予防のため、採卵鶏舎のネズミ侵入経路を解明

高病原性鳥インフルエンザ等の発生リスクとなるネズミの侵入経路を行動分析を元に解明。大規模採卵鶏舎における効果的な侵入防止対策に役立てていきます。

背景

- ・ネズミは鶏舎内に病原体を持ち込む主原因であり、大規模採卵鶏舎では、集卵バーコンベア等の開口部（以下開口部）で鶏舎を出入りするネズミが確認されている。
- ・開口部は構造上完全に閉鎖することができないので、開口部までの侵入経路を正確に把握し(*)、その経路上でネズミの侵入防止対策を実施する必要がある。（*）専門業者未対応）

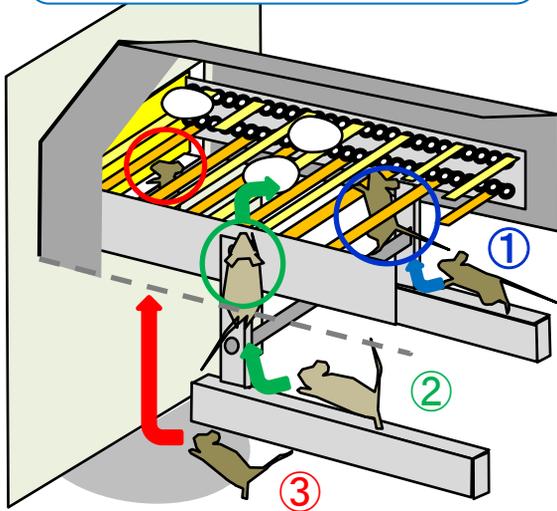
課題等

- ・開口部までどのようにネズミが到達するのか経路の解明が必要
- ・ネズミ侵入に関与する開口部とその周囲の構造の詳細な調査が必要

捕獲ネズミ等の調査結果分析（n=38）

- ①頭胴長の最大値は**22cm**
➡ネズミの手が届く高さ
- ②頭幅の最小値は**15mm**
➡ネズミが通れる幅

集卵バーコンベア開口部までのネズミ侵入経路



研究成果

- ・集卵バーコンベア周囲の①足場、②隙間、③壁面からの侵入経路が判明
- ・ポイントとなる箇所への対策により、効果的に侵入防止できることを確認

■現状
侵入防止対策は開口部のみで実施（困難）

■技術導入後
侵入経路の判明で、開口部周囲での侵入防止対策が実施可能

今後の展開

- ・ネズミ侵入防止マニュアルを作成し、鶏舎構造にあわせたネズミ対策を普及
- ・高病原性鳥インフルエンザ等の発生リスクとなっているネズミの侵入防止により、養鶏場の防疫レベルの向上を促進します。

府内大規模養鶏場7農場で、開口部付近を自動撮影カメラで撮影し、ネズミが開口部に至るまでの経路の行動分析

① 集卵バーコンベアの真下にネズミの足場となる構造がある場所（7農場で確認）

ネズミが立った時、前足が届く高さ（**23cm以内**）の足場から侵入

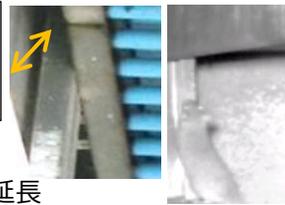
【対策例】バーコンベア下部を鉄板で覆う



② 集卵バーコンベアとそのカバーの間に**15mm以上**の隙間がある場所（7農場で確認）

柱等、登れる足場から侵入

【対策例】柱全体を覆うようにカバーを延長



③ 集卵バーコンベア開口部に接した壁面をネズミが駆け上がり侵入（2農場で確認）

【対策例】ネズミ返しを設置

